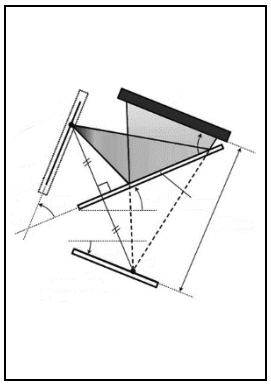

Society 5.0 を支える VR 技術

東京大学
廣瀬通孝

１．はじめに

コロナ禍の終焉が見えたのか見えないのか微妙なところだが，これからの社会が大きな変革期を経験するだろうことは確かである。

コロナ以前から使われていたのが，Society 5.0 というキーワードである。図 1 に記したように，人間の社会は狩猟社会（Society 1.0）から始まり，農耕社会（Society 2.0），工業社会（Society 3.0），情報社会（Society 4.0）へと発展してきた。情報社会の次に来るのが Society 5.0 の社会というわけである。

この Society 5.0 が具体的にどんな社会かを一言で述べることは難しく，いわんや「□□社会」のような名称を与えること自体，Society 6.0 が始まってからになるだろう。ただひとつ確実に言えることは，Society n.0 における主役は，Society (n-1).0 における主役でないことである。したがって，Society 5.0 が情報社会でないことだけはたしかである。

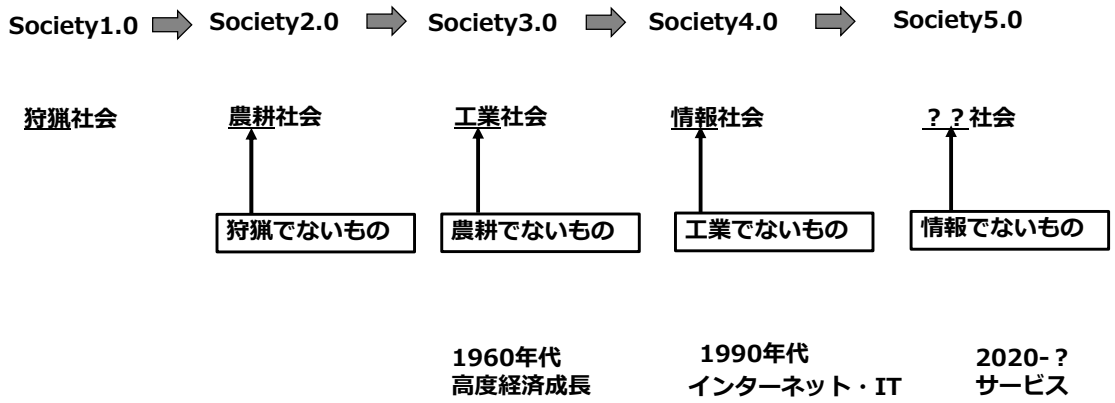

図 1　社会は Society5.0 へ

もちろんこれは，Society 5.0 が情報社会と対立することを意味しない。超越する，あるいは包含するということである。もっと言えば，情報（技術）があたりまえのように使えるようになる社会ということであろう。情報社会の前提として，工業製品がふんだんに存在し，必要とあらばいくらでも利用できるようになった状況があることを思い出せばよい。

言葉をかえれば，Society 5.0 とは情報技術が先端的技術としてではなく，基盤として社会をしっかりと支えるようになる世界なのである。先端的技術と基盤的技術は，いくつかの点において異なる存在である。先端的技術は常に進化することが宿命であり，日常的変革は善である。1980 年代のコンピュータ事情はまさにそれで，大型システムからマイクロコンピュータへの大胆なシステム変更が行われた。そのマイクロコンピュータにしても次々と新しい機種の投入が喧伝され，OS にも新しい機能が次々と投入されたものである。